



三重病院

ニュースレター

news letter vol.221

- 01 年頭のごあいさつ
- 02 「臨床研究部からのお便り」-第1回-
- 03 異動のごあいさつ
[健康教室]のお知らせ/医療安全川柳(1月)
- 04 『糖尿病川柳』入選作品決定!
5病棟の生活のひとコマ(32)
「やまばとギャラリー」情報コーナー
- 05 三重病院外来糖尿病教室「減塩のすすめ」
三重病院のサラメン(19)
- 06 アレルギー教室のクッキング(2月)のお知らせ
外来からのお知らせ/外来診察のご案内

年頭のごあいさつ

国立病院機構三重病院 院長 藤澤 隆夫

あけましておめでとうございます。
今年も、皆様にとって明るい年になることを心からお祈りします。

世界の平和を願って

2017年は北朝鮮の核開発、引き続きテロなど世界が一層の不安定化に向かった年でした。でも、2018年こそは私たちに与えられている「良き意思」が働いて、平和で幸せな世界へと向かうことを願います。1979年にノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサは、世界平和のために何をしたらいいですか、と聞かれて、「帰って家族をたいせつにしてあげてください」と言われたそうです。この言葉は、私たちの身近なところでの思いやりがたいせつなことを教えてくれます。私たちはともすれば自分勝手に相手の気持ちを思いやることのできないのですが、私たちには「良き意志」、つまり、相手のことをたいせつにする優しい気持ちも備えられていますから、いつもこの言葉に立ち返りたいと思います。そこから良いことが始まります。三重病院の職員も、患者様に寄り添う心で、よい医療を提供したいと願っていますので、今年もどうかよろしくお祈りします。

持続可能な進歩へ

医療の世界では、研究の進歩によって多くの新しい治療が開発され、助けを求めている患者様にとってはすばらしい恩恵となりました。でも、新しい治療薬の中には、効果はすぐくても非常に高価なものも少なくありません。結果として、医療費の高騰を招いた面があり、わが国は少子高齢社会のために働き手が減って経済的にはけっして楽ではありませんから、「持続可能な」進歩に向かつては難しい舵取りを迫られている時代とも言えます。それでも研究の重要性がうすれることはありません。三重病院も医療をより良くするための研究心をたいせつにしています。入院中の患者様のケアへの「ちょっとした」工夫から、新薬につながる研究まで小規模ながらも努力していますので、どうかご注目ください。今年のニュースレターでは臨床研究部の取り組みも紹介していきますから、お楽しみに。

三重県立子ども心身発達医療センターとの連携

2017年6月に三重病院に隣接して、児童精神科や小児リハビリテーション科、聴覚障がい者のための福祉機能などを専門とする「三重県立子ども心身発達医療センター」がオープンしました。三重病院は小児科では川崎病や肺炎など子どもの急性疾患、アレルギー疾患、感染症、糖尿病、自己免疫疾患、神経疾患などの専門医療に加え、小児外科・小児整形外科・小児耳鼻咽喉科も備えていますから、新「センター」との連携で、より総合的な小児医療を提供できるようになりました。現在、二つの施設を廊下でつなぐことはもちろん、電子カルテ相互乗り入れ、小児科医によるセンターの回診、院長・センター長相互回診など行いながら、連携を深める努力を続けていますので、どうかよろしくお祈りします。

三重病院の二つの柱：小児医療とセーフティネット医療

小児医療と並び、三重病院が医療提供の柱に据えているのがセーフティネット医療です。聞き慣れない言葉かもしれませんが、セーフティネット医療とは、さまざまな障がいや難病をもっておられる患者様への医療の提供を行うことです。こうした医療は急性期に特化する民間医療機関では必ずしも行いにくいので、国立病院機構が担う役割のひとつとなっています。当院では慢性呼吸器疾患をはじめとした内科系疾患の病棟に加え、重症心身障がいの患者様の病棟や筋萎縮性側索硬化症やパーキンソン病をはじめとした神経難病の患者様の病棟があります。それぞれ重い病気を抱えながらも、いっしょうけんめい療養されていますので、職員一同、ひとりひとりをたいせつにする医療を心がけて、この2018年もがんばっていきますので、どうかよろしくお祈りします。

おわりに

三重病院は「山椒は小粒でぴりりと辛い」をめざし、比較的小規模ながらもチームワークで地域に貢献したいと願っています。私たちが与えられた役割を一層しっかり果たしていけるよう、皆様の声をお待ちしています。本年もどうかよろしくお祈りします。